

ハイスクールD×D～赤 龍帝観察日記～

ハム☆

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

俺は睦月 長門

突然だが俺は死んでしまったようだ。

目覚めるとそこは真っ白な空間（笑）あれ？これなんてテンプレ？

※処女作です!!アドバイスや誤字脱字の指摘お願いします。

感想お待ちしております。

目次

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
ページ目	ページ目	ページ目	ページ目	ページ目	ページ目	ページ目	ページ目	ページ目	ページ目
55	46	40	35	30	23	16	10	7	1

1 ページ目

『拝啓画面の向こうの皆様

桜が散り、若葉が青々と茂り気温が高くなってきた今日この頃いかがお過ごしでしょうか。

私睦月 長門はどうやら死んでしまったようです。』

何で分かるかって？目が覚めたら真っ白な空間（笑）あれ？これなんてテンプレ？

だけど俺には死んだ記憶が無い。まあ、俺の後ろで気配を消しながら近づく奴にでも聞くかな。

「上手く気配を消してる積もりだろうけどバレバレだよ……出て来な」

「何故わかった？」

「確かに野生動物でも気づかないだろうけど、僅かな空気の揺れは消しきれないからね。ようするにへたくそ♪」

神様（笑）は大変驚いていらっしやる。

此処で神様（笑）の容姿の説明

10対20枚の黄金の翼で

金髪碧眼の……イケメン……だと

改めて俺は世界の不条理を思い知った。

「何か殺気を感じるが（（（。D。；）（）ガクガク」

「……………気のせいじゃね？」

俺は全身から滲み出ている非リア充オーラ（殺気）を消し、質問する。

「あんた誰？」

「俺はk「神様ね」……被せるなよ」

「役職は？」

「創世神」

この神様（笑）中間管理職かと思ったたら創世神だった。……世も末だねえ。

「やかましいわ!!あと（笑）はやめろ!!」

心を読まれた。ふくん所詮テンプレ読心術か……キモっ!!駄神のくせに生意気な。

「ドンドン酷くなつていく……………Orz」

「……………ハン！」

……ありやりや落ち込んだじゃったよ。

あの落ち込んだ顔見ると、清々しいねえ（笑）

じゃあ、遅くなったが俺の自己紹介

俺は睦月 長門

黒髪灰眼 顔は神様（笑）と違ってフツメン

死ぬ前はハーレム築いていた鈍感イケメン野郎の親友やってた。

所詮脇役だが、小説みたいなチートじゃない。

むしろ……弱者だ。

弱いが故ヤンキーやヤクザや族または、俺を良く思わないハーレムメンバーに何度となく殺されそうになったやら（；―――） || 3 ハア

だから俺は生き延びる為に異常なまでに気配や匂いに敏感になった。

性格はかなり歪んだが……

く一時間後く

「……で、俺何で死んだの?」

只今、ようやく立ち直った駄神と本題に移る。

「……私のミスだ。お前の命の履歴書にお茶をこぼした。」

ほお、テンプレ通りの下らない理由か。……面白い。

「お、面白いって、俺に対して怒りとか感じないのか!？」

「感じないね。ちなみに死因は?」

「心臓麻痺だ。」

それ、なんてDEATH NOTE?

「じゃあ俺はこれからどうなる?」

「テンプレ通りのチート転生」

成る程分かりやすい。

要約すると、こう言うわけだな。

俺死ぬ↓駄神ミスった↓お詫びにチート転生

「転生する世界は?」

「ハイスクールD×Dのパラレルワールドだな。」

ハイスクールD×Dねえ。死亡フラグと頭がアツパツパーな変態満載の素敵世界か。

「特典とかあり?」

「何でもありだ。好きなかだけ言え。」

ほお、制限なしか。

「なら3つ

1つ目、神器《セイクリッド・ギア》や神滅具《ロンギヌス》を創造する神滅具

2つ目、原作開始10〜20億年前に送れ

3つ目、他の転生者からめだかボックスの安心院さんの記憶を消せ

以上」

俺は安心院さんファンだったりする。考え方も似ているし………だがリアルと二次元は区別

つくからな?!こら!そこ厨二病言うな!

ただ俺は俺以外の人間を暇つぶしの玩具だと思っただけだし。

「みつ、3つ目は、ど、どう、どういう訳だい?」

「あんたの事だ。実はかなりミスってるだろ。」

「お前には、適わないな。そうだお前以外に2人いる。」

やっぱりな。しかし創世神って全知全能じゃなかったっけ?

「……他の転生者の特典と聞かないのか?」

「聞かない。未知な出来事があるから人生ってのは、面白い。」

「聞きたい事が幾つかあるんだが……いいか?」

「いいけど。」

どうせ、気配の察知やら、可笑しい考え方だろ?」

「簡単に言うなら……そうだな。」

王道の鈍感イケメン野郎の脇役かな。

後はお茶まみれの命の履歴書読め」

どうやら落ち込みすぎて読心術を使えていなかったようだ。

「やっぱりお前は変わってるな。じゃあ逝ってこい。」

「字、違っ……………」

地面、てか俺の足元に開く黒い穴。つまりは……

「テンプレええええええええええ!!」

そうして俺は転生した（笑）

2 ページ目

はあ〜い皆元気かな？それにしても久しぶりだね。皆大好き長門だよ☆ ……自分でやっついてなんだがキモっ!!

とまあ、俺が転生してから大体16億年ちよいの年 月が経った。 ……え？時間跳びすぎ!?!おk ……なら懇切丁寧に説明しよう。 10億年ひたすら神器創りその間ボツチOrz 今では、神器の所持数は簡単に言えば安心院さん。正確には… 7932兆1354億4152万3222個の神器と 4925兆9165億2611万0643個の神滅具合合わせて 1京2858兆0519億6763万3865個…創って何だ がぶっちゃけ使い道が無い!! 原作キャラに合った時に嘯まずに言えるように練習したさ!! まあ、練習したのは、嘘だが。 6億年間は、神器の特訓だな。何せ1京もあるし、お陰で全て禁止手《バランスブレイク》に至った。最低でも、3億同時で禁止手を展開出来る し、保持時間は300時間かな。 後は、俺が創った神滅具「世界創造の鍵」<ワール ド・クリエイトキー>で世界を異空間に創造、「生物創造の書」<ライフ・クリエーターブック>であ らゆる生物を1000万匹程創造、「真の強者の世界」<リアル・ストロングワールド>で世界一（笑）の強さを誇るグレイ

トレット（だっけ？忘れちった）の 10〜1000倍の強さに変えてサバイバル生活だ。名 付けるなら「ドキツ☆神滅獣だらけの極寒サバイバル生活」だな。4日程で絶滅させたが、まあ、そろそろ三代勢力と二天龍の戦争が起こる 時期だが、正直に言うとうと……

「お前等弱過ぎ！クソワロタｗｗｗｗ」

やりすぎた!!

……原作介入どうしよう（；；） いやマジで、いやでもせつかく転生したんだし、介入しなきゃ損だな。 あっ!!原作介入と言えば、俺以外の転生者はどんな感じに介入するつもりなのやらねえ？ ハーレム（爆）でも作るのか？俺は流石に無理だな。 16億年も生きている俺からしたらたとえ1万 歳のババアですら、餓鬼だし、女性への興味自体 が薄くなった。 ……しようがない。戦争が始まるまで（500年）寝るか。

さあお休みなs『貴様!!唯の人間ではないな何者だ!!』……あん?

声のする方向を向くとドラゴンでした。黒いドラゴン。力は二天龍並、こんなドラゴン邪龍や龍王にいたか?……そーいや、邪龍は俺が粗方ピチュって残りは神滅具で封印したし、何者?

『聞いているのか人間!!』

「人に者の尋ねるなら、まず自分が名乗れよ。」

『我が輩は黒龍帝ゼイノス。二天龍を超えるドラゴンだ!!』

二天龍（笑）超えるって力は互角ぐらいだろ。

あつ！わかった他の転生者の神器に封印される予定のかませ犬みたいなドラゴンか。
だが、

「なん……だと……割とどーでもいいわ（笑）」

『き、貴様！我が輩を侮じよk「はい、冥界の最下層付近に転く送」ちよつまつ…
アツーーー!!』

「下らねえ。お休みなさい。」

俺は眠りについた。

3 ページ目

黒歴史……それは当事者にとつて「誰にも触れてほしくないこと」や「忘れたい、なかつたこと」にしたい恥ずかしい事実」の事らしい。

皆さんも今まで生きてきた中で黒歴史と呼べる出来事があつたのでないだろうか。

そしてこの俺睦月 長門にも転生してから2つ程黒歴史と呼べるものがある。

1つ目、三代勢力と二天龍の戦争の前の俺のボツチ生活に対するクソ長く、読みにくい説明。

2つ目、自称二天龍（笑）を超えるとか何とかピーキヤ騒いでた黒龍帝を冥界の最下層付近に転送した後、500年の眠りに着いたんだが……

目が覚めたら、あら不思議！二天龍（笑）の気配がないじゃありませんか。ついでに四大魔王（笑）や聖書に記されし神（下っ端）の気配がない。

ここで頭の良い俺はある1つの答えを導き出したね。

寝 過 ぐ し た !!!

戦争オワタ（^o^）／

500年どころか1000年近く寝てたみたいだぜ！
てな訳で壮大な原作介入計画失敗（・ω・）シヨボーン

ちなみに原作開始まであと10年みたいだ。

只今、寝起きの散歩気分で冥界一危険な森を散策中。

うん。自然はいいね。心安まるわ。

最近の環境問題となっている。人間による自然破壊。

自然破壊なんて許せないね！……世界ごと破壊した俺が言えた義理じゃないが……
それでも言わせてくれ!!

自然破壊 ダメ 絶対

まあ、ラブ&ピースを信条にしている俺は思うのだよ。

世界が平和でありますように。↑これフラグ

「きゃああああ!!」

テンプレk t k r \ (^ o ^) / フラグ建てるで大抵何か起こるから楽しいんだよ。

俺は声が聞こえた場所まで神器を使い猛ダッシュ!!

速度は音速の約2, 46倍。

余談だが、身長176センチある俺の質量で音速の2, 46倍で走るとどうなる？勿

論、周りは悲惨な事になる。

素晴らしい程の自然破壊だね!!

……さつき言っていたことはどうしたかって?……ナニソレ?ボクワカ〜ンナイ
などとふざけたことを考えながら走っていたら通り過ぎちまったぜ。

しかし、通り過ぎる際に一瞬だけ、見えた光景がある。

確か黒いドラゴンに襲われているピンク色のフリフリ服を着た……大柄な女性?
女性……だったか?とりあえずUターン。

到着したが、我が目を疑った。

「なん……だと……(。(。 ㇿ ;)()()」

「によオオオオオオオ!!」

……皆さん、今の声でお分かりになっただろうか。

色々とキャラが濃かった原作キャラ、魔法少女ミルたんだ。

とりあえず状況報告。

黒いドラゴンに馬乗りになって、ピンク色のフリフリ服を着た(世紀末覇者の如く)筋骨隆々の漢女が顔をひたすら殴っている…ね。

ああ……ピンク色の服が返り血が……てか、ヤメテあげて!!ドラゴンのHPはもう0

よ!!

なんか殴る音が…

グツチャツアアアアア!! とか

ドツゴオオオオオ!! とか

有り得ないだろ!?!そして悲鳴?も

「によ!!によ!!によ!!んによオオオオオオオ!!」

『人間が嘗めるなあああ!!』

あつ!ドラゴンがブレス吐いた!!

…しかし、ミルたんには、効果がないみいだ。服に汚れすらつかない。返り血はついているが…

おいおい、一体何者なんだ!?

俺は神滅具「電子世界の全知全脳」<グローバル・ブレイン>を発動。コイツは自分の未来意外の知りたい情報を知る事が出来る。お手軽神器だ。例えばそれが過去や前世や未来でもだ。ぶつちやけ個人情報保護法カムバック!!と叫びたくなる。

早速、対象をあの不思議生物(ミルたん)に設定。

名前：ミルたん

種族：error

性別：漢女

神器：なし

備考：魔法使いを夢みる漢女。

過去：様々な異世界を救った英雄

現在：ドラゴンと死闘

未来：異世界に行き魔法習得

前世：破壊神

備考：魔法使いを夢みる漢女。

人間界に生息。

……あれ？自分の未来意外なら全ての情報が全て分かる筈なのに……種族 e r r o

r っってどんな超生物？え？壊れてないよな？じゃあドラゴンは、どうなる？

名前：黒龍帝ゼイノス

種族：ドラゴン

(中略)

過去：人間に冥界の最下層付近に強制転送され、ハーデスと鬼ごっこ

現在：サンドバック

未来：ミルたんによって封印され、転生者の神器となる。

前世：タニシ

4 ページ目

前回の“ミルトン冥界降臨事件”より一週間経過。

俺は今とある湖に釣りに来ていた。

しかし、道具一式を持ってきた筈のだが、釣りに最も必要な餌を忘れていた。

仕方ないので餌をそこから調達し釣りを開始した。

「長門 我に協力する。」

釣りの最中に話かけてくる奴がいる。正直鬱陶しい。しかし、心優しい俺はシカトせ

ず返事をする。

「やだ。めんどい。」

「我 グレートレッドを倒したい。ッ!？」

チャプ

「知らんがな。」

ザパア

「プハア……だけど、我では倒せない。ッ!？」

チャプ

「知ってる知ってる。てか、何回同じ説明しに来たんだよ?。」

ザパア

「1046万5821回……ブクブク」

チャブ

「軽くホラーだろ!?!」

ザパア

「プハア……。」

はあくくしい、皆さんはもうお分かりでしょう。俺が今会話しているのは原作キャラで合法ロリ「無限の龍神」オーフィスちゃんです。

かれこれ、「長門!!一緒にグレートレッド狩ろうぜ!!」と言う勧誘を14〜1500年前から受けてるぜ。最早、ストーカー! 正に悪質商法!!

只今の状況を説明するなら

俺の正面にオーフィスちゃんがいる。

正確には、俺が持っている釣り竿と釣り糸と先端に簀巻きにされ、全身ずぶ濡れゴスロリ服のオーフィスちゃんが……

つまり調達した魚の餌はオーフィスちゃんでした☆

通りで魚が釣れねえ訳だ／(^ o ^) \ ナンテコツタイ

この子ね、毎回出てくる度にこのような罰ゲーム紛いなことされてるのに飽きずに戻って来やがる。

例えば……

怪鳥がウジャウジャいる断崖絶壁に逆さ宙吊り。

活火山の噴火口に直接転送。

雷が半永久的に降り続けている場所にある避雷針にくくりつける。

冥界の最下層コキュートスのハーデスの目の前に転送。

それでも戻って来る。………凄いや!!さすが無限の龍神(笑)

それでも、ご近所(魔獣しかいないけど)で粘り強いと定評ある(しぶとい)俺はオー

フィスちゃんが餌の釣りを諦めない。

再びオーフィスちゃんを水中へポイ!!

………

………

………釣れぬ、(＊、凸)ノ

………あゝそうだ。この一週間に起きた出来事を回想してみようか。

回想スタート!!

一週間前、そう。ミルたんから逃げ出したあの日の事だ。

いつの間にか秋葉原に来ていた俺は疲れを癒やす為にメイド喫茶に入った。偶然にも客は俺を除いて1人しかいなかった。でもソイツは……………

和服（浴衣？）チョイスの黒髪の……………イケメンだ?!?なんか、メイドさんにシエムハザがどうのこうの愚痴つてる。

……………コイツ、アザゼルか。

しかし、ちよい悪イケメンか……………シネ

とりあえず、ジャーマンキメ込んだ俺は悪くない筈。

その後、一悶着（殺し合いが）あり、最終的には意気投合した。

アザゼルと二次会気分で冥界のバーへ

奥の席で、大人の雰囲気醸し出しながら酒を呷る赤髪長髪の……………イケメン!?なんか酔っていて、リーアたんがどうのこうのって……………サーゼクス!?最強の魔王の面影一切無しだな。

しかし、爽やか系イケメンか……………ホロンデシマエ

アザゼルが部下へのお土産に買っていた妹系フィギュアを叩きつけた。叩きつけてやった。アザゼルが感謝感激で涙を流してるZE!!（絶対違う。）

お土産がくくと嘆いているのは気のせいだろう。

反省も後悔もしない。むしろやり切った清々しい。ザマアミロ

つまりは……

怒られた!!\ (^ o ^) / ウワーオ

アザゼルはシエムハザに

サーゼクスはグレイフィアに

ミカエルがガブリエルに

ハン! ザマアミロ

俺? ポツチだぜ? 叱られねえよとか思っていたんだけど………ね?

こっつり絞られた。(/ | .)

ちなみにあの3人のあだ名をきめた。

アザゼル || 厨二総督

サーゼクス || シスコ

ミカエル || ミートパイ

ろくなのねえ!

……てな訳で中々濃い1日を過ごしたのでした。めでたしめでたし。

……ハイ! 回想終わり!

さて、魚は釣れたかな?

………餌が付いてない。遠くにリヴァイアサンが見え、奴の体内にオーフィスちや

んの魔力を感じるのは気のせいだろう。

うん。そうにちがいない。

オーフィスちゃん今度はどのくらいで戻って来るかな。まあどーでもイイケド
「今日もいい一日だったな〜」

5 ページ目

駒王学園、原作キャラが通う高校。

確か最近共学になったばかりだから男子より女子（美少女）が圧倒的に多い学校って
“ブルマ愛で隊”と言う犯罪臭が漂うサイトに乗っていたZE!!

あれから9年、原作開始まであと1年。

そして俺は今駒王学園の昇降口に来ている。

理由は簡単。今日からピカピカの一年生だからさ!! ボッチ歴16億年はハンパじゃない。

友達が出来るかどうかめっちゃドキドキしてる。

中学にも行ってない俺が駒王学園に入学出来たのは、裏口入g……ゲフンゲフン交友関係とか諭吉さんって大事だね。

友達のシスコン通称サーゼクスくんにまじ感謝!! シスコン! このご恩は忘れないよ!! ……ん? なんだったっけ?

高校に入学出来る嬉しさに時間を忘れ、正気に戻った頃に時計をみてビックリ!! ……:10時20分と完全に遅刻/(。ー。)

とりあえず体育館へ

体育館に着くと校長らしきハゲが未だに長つたらしい話をしていたが、今日ほど校長のクソ長い話に感謝したことがない。俺は生徒や教師に見つからないように紛れ込んだ。

入学式も終わり自分のクラスでの自己紹介。

我らが担任は赤ジャージのゴリラみたいな奴だ。

先ほど、原作キヤラである木場くんの自己紹介（女子と一部の男子が黄色い声援をあげてた）……ん？一部の男子!? いや、触れないでおこう。

次のクラスメートの自己紹介。

「いよう！俺様の名前はケーマ・神崎・ヌイだ。見ての通り俺様はハーフだ。親父がロシア人、母親が日本人だ。趣味はギター、特技はいや、俺様にできないことなんてないからコレと言っていないな。可愛い女の子達は今日から俺様の存在に酔いしれることだろう!!だが俺様はブスなんかには、用がない!!そして冴えないフツメン野郎共貴様らは、そこで指でもくわえて無い物ねだりでもしてるんだな。なんせ俺様は神に選ばれた（あまりにうざい為省略）」

クラスの皆ドン引きである。

そしていくらかの男子諸君からは刺すような視線……いや死線を向けている。

神器を使って調べてみたがコイツ…転生者だった。神器はミルたん封印された黒龍帝（笑）特典や詳細は後々に語るとしよう。

そんな転生者の容姿説明

銀髪オツドアイのイケメン

テンプレ過ぎて何も言えねえ

しかも名前に“神”入ってるし……ん？

ケーマ・神崎・ヌイ？

ケーマ・ヌイ……マケイヌ……負け犬？

まさかな、（ー、ー）

だがコイツはフツメンを馬鹿にした。

……ふふフフ負負負負。

同士を集って天誅を下してやる。

まずは手始めにある物を机の中に転送。

……ククク 反応が楽しみなあ。

これが後のリア充抹殺特殊大隊の始まりだったりする。

「…………きー………月！睦月！」

「ん？なんすか？」

「お前の番だ。さっさと自己紹介しろ。」

どうやら考え事に夢中になっていつの間にか俺の番になっていたみたいだ。

「はいはい……えー、睦月長門です。嫌いな物は三つ、

一つ、イケメン

二つ、ナルシスト

三つ、リア充

苦手な物は暑苦しい赤ジャージ「それって俺のことか!？」 yes! モチロンさあ☆それと……

バチン!!「ギャアアアアアアアア!!机の中に何でネズミ取り用の罠がああ!!指が!指がああああ!!」まあそれはいいわ。『負け犬さんよお、俺お手製のネズミ取り用罠の味はどうだ?ザマアミロ(フランス語)』

俺は、厨二総督、シスコン、ミートパイが泣いて喜ぶ程好評だった満面の笑みで言う。

「さっきなんて言ったんだ?」

「フランス語で」皆さん一年間よろしくお願ひします。 “ っ て ”

「そ、そうか?皆今年一年間よろしくな!!」

一瞬間に思ったが俺の言葉をすぐ信じる。

この赤ジャージゴリラ中々チョロい性格である。

今度高い壺でも売りつけてみようかと心に固く誓った。

ゲーマ side e

俺様は神に選ばれたオリ主のゲーマ・神崎・ヌイだ。

クラスメートに自己紹介を終え、席に着いた。

此処で画面の向こうの奴にも俺様と言う至高の存在の過去を教えてやろう！

俺様は神のミスによって死んだが、チート能力を貰って俺様の大好きなラノベ“ハイスクールD×D”の世界に転生したんだ。

転生特典の一つ、オリジナル神器を頼んだら二天龍に匹敵するドラゴンが封印された神滅具だったぜ!!

名称は「黒龍帝の右腕甲」<ジェット・ライトアーム>

10秒毎に防御以外の能力が倍加するものだ。

俺様は最強となった。

!!!
俺様はこの力で俺は、リアスを始め数々のヒロインを手に入れハーレムを築いてやる

まあそんな感じだ。

いずれこの机の中もラブレターでいっぱいになるのだろうと思ひ、手を机の中に入れ

……バチン!!

「ギャアアアアアアアアア!! 机の中に何でネズミ取り用の罠がああ!! 指がああ!! 指がああ!!」

一体どこの誰の仕業だ! 絶対許さねえ!!

必ず見つけてぶっ殺してやる!!

side out

木場 side

はじめまして、僕視点は初めてだね。

今は自分のクラスで自己紹介をしている所。

先ほど銀髪で顔立ちが整った彼の10分にもわたる自己紹介が終わった。

凄く強い力を感じるけど、彼の性格はあまり好きにはなれそうにない。

クラスの皆も心なしか嫌悪しているように見える。

そして何人かの自己紹介が終わり、自分の順番になっても気づいてない男子がいた。

黒髪に灰色の瞳の至って普通の子のようだ。

その男子は先生に言われ自己紹介を始めたが、途中で先ほどの銀髪の彼が叫び声をあげた。

……どうやら机の中にネズミ取り用罫が仕掛けてあつたらしい。
クラスの皆は大爆笑。僕も少し笑つてしまった。

そして、自己紹介途中の彼はフランス語で何か言つた後先生に何を言つたかと聞かれ、

「フランス語で、皆さん一年間よろしくお願いします。」と云つたが嘘だ。

僕は悪魔に転生したおかげで外国の言葉は全て分かるようになった。

確かに彼は『負け犬さんよお、俺お手製のネズミ取り用罫の味はどうだ？ザマアミロ』と言つた筈。

うん。ネズミ取り用罫を仕掛けたのは彼だった。

彼はもの凄く良い笑顔をしている。けれど彼から感じる雰囲気は何だろうか？

ただの人間つて訳ではないようだけど……

睦月長門：君か。不思議と彼と友達になりたいと思つた。

side out

6 ページ目

睦月 長門

黒髪灰瞳のフツメン

16億6249万3081歳（原作開始時）

身長176センチの細身。

転生特典

・ 神器を創造する神器

・ 原作開始10〜20億年前に転生

・ 他の転生者から安心院さんについての記憶を消す

備考

転生前

至つて普通の男の子だが、親友？に鈍感、イケメン、ハーレム体質の王道主人公がいた為様々な面倒事に巻き込まれ、王道主人公の近くにいると言うだけで、長門を快く思わないハーレムメンバー（ビッチ）や、族、ヤクザ、ヤンキーなどに何度も殺されそうになった。

そんな環境で過ごしていた為、異常なまでに気配や匂いに敏感になった。

また、性格も多少歪み、命がけの危険な状況でも楽しむように……キャラが中々安定しないのは、その為。

本日曰わく自分は「王道の鈍感イケメン野郎の脇役」らしいが小説のようにチートな脇役ではない。

神のミスにより、某黒いノートに名前を書かれた人の死因で死亡。

後にチート貰って転生。

転生後

半人半神（創世神により、原作開始2日前、終末神オメガの称号を得る。）

10億年間、神器創造

6億年ちよい、神器の修業

創造した神器の数量は、安心院さんにちなみ、

普通の神器………7932兆1354億4152万3222個

神滅具………4925兆9165億2611万0643個

合計1京2858兆0519億6763万3865個である。

全ての神器を禁手に至り、保持時間は300時間、3億同時に禁手の展開が可能に。

代償は16億年のポツチ生活とコミュ障（笑）

ネーミングセンスが壊滅的。

今までに使った神器

「神器創造」<クリエイティブ・ギア>……神器の創造

「世界創造の鍵」<ワールド・クリ エイトキー>……世界創造

「生物創造の書」<ライフ・クリエーターブック>……あらゆる生物を創造

「真の強者の世界」<リアル・ストロングワールド>……生物の強さを好きに設定

「神々の黒冥穴」<ゴミバコ・ニ・ポイ>……あらゆるものを好きな場所へ強制転送※

黒龍帝（笑）、オーフィスちゃんに使用

「神速爆走」<ライジング・スピード>……速度を自由に設定

「電子世界の全知全脳」<グローバル・ブレイン>……自分の未来以外なら情報を全て
を知ることが出来る

ケーマ・神崎・ヌイ

銀髪オツドアイのイケメン

※右赤、左青

17歳（原作開始時）

身長173センチ中肉中背

転生特典

- ・ オリジナル神器
- ・ 銀髪オツドアイのイケメン
- ・ 大嘘憑き

備考

転生前

43歳の自宅警備員

神のミスにより、自宅のトイレ（洋式）の便器に頭部を突っ込み犬神家状態で死亡（笑）後に神を脅しチート貰って転生。

転生後

UUUUUUUUUU!!勘違い主人公人生まっしぐら。

修業や実戦経験なし。だが、本人は自分が世界最強と信じている。

神器

神滅具「黒龍帝の右腕甲」<ジェット・ライトアーム>……10秒毎に防御以外の能力の倍加

創世神（アルファ）

金髪碧眼のイケメン

? 歳

180センチ長身

備考

全ての世界や生物を創ったすんげー神様

ちよいちよいミスを起こし、人を死なす迷惑な駄神。

ケーマ以外の転生者を気に入っており、転生特典を好きな物を好きなだけと言った。

(ケーマは3つ)

しかし、転生者の特典の1つに細工(発現条件)をしたりする。

例えば、

ケーマ 「大嘘憑き」 ……裸エプロン先輩と同じような過負荷な過去を送ると発現。

長門 「神器創造」 ……1京分の1の確率で身体に宿り、次に1京分の1の確率で発現、更に1京分の1の確率で能力が自由に使い神器を創造できる。

などがある。

7 ページ目

『今日、イツセーがボンテージ痴女に告られた。今日から赤龍帝観察日記をつけようと思おう。』

入学から1年、原作が開始した。

…え？また跳んだ？いやこの1年間特に何もなかったからねえ。

…：わかった。説明しようじゃないか。この1年間の出来事を!!

・木場さんと友達になる。

・主人公 兵藤一誠と親友になり、おちよくって遊んだ。

・負け犬がうざい。

…：…：以上!!

それと、どーでもいいが、2日前に破壊・殲滅系神器×1億個と神・魔王系神器×1億さらに即死・虐殺系神器×1億を同時に禁手したら、新たに神器？が出来た。

気になって創世神に連絡した所、「お前が創ったのは、神器ちやう、神様や。お前今日から神様やれ(笑)」とか言われ、終末神などと言う厨二な称号を手に入れた。

どうやら、創世神の対となる存在のようだ。

結果、俺……本格的に人間辞めました。／（o^o^）＼Oh…ナンテコツタイ

只今、親友イツセーが更衣室の覗きからボロ雑巾状態で帰ってきた。

どうやら立てそうにないので、保健室に連れて行ってやった。足を掴みグラウンドを10周してから……運ぶ前より、ボロボロで汚くなっているが、文句は受け付けられない。むしろ感謝してほしいくらいだ。

イツセーの治療が終わったので生徒会長に売り飛ばした。いやあ、親友の絶望した顔に笑いがこみ上げてくるねえ。

ちなみに生徒会長の名前は 支取 蒼那（本名：ソーナ・シトリー）原作キャラで黒髪のクールなメガネっ娘だ。

「長門君。いつも問題を起こす兵藤君を捕まえてくれて、ありがとうございます。」

「気にしなくてもいいよ。イツセーの幸せに満ち溢れた顔見れて嬉しいからね。」

「そうですか。またよろしくお願いします。……そうだ！お礼にお菓子を作ってきますね。」

「………あ？」

横からイツセーが裏切り者！とか言ってるが無視!!今は蒼那が作るお菓子の方が問題なんだ!!

彼女の趣味はお菓子作り何だが腕前は壊☆ 滅☆的!!

パネエんだよ。前食べた時は体の中から焼けるような痛みが走った。

ちなみに、神器で調べた所彼女のお菓子からあのフェンリルの持つ神殺しの牙と同じ……いや、それ以上に危険な代物だということが分かった。

支取 蒼那……恐ろしい子!!

流石にあれはヤバいので神滅具「未来の選択肢」＜パラレル・オルタナティブ・フィューチャー＞を発動。

これは分岐したい過去を指定し、起こった現実（未来）を否定し、有り得た未来を現実置き換えると言うチート能力である。

そして、お礼のお菓子を貰わなくてすんだ未来を現実にした。

とりあえず命の危機は去り、ついでにイツセーを売り飛ばした現実も否定してやった。俺って優しいく（・・▽・）

その後イツセーと別れ下校。

あー今、イツセーが天野夕麻に告げられている。

それを俺は近くのデパートの屋上から眺めている。つまりは、だ。偽りとはいえ、リア充誕生の瞬間を目撃している。

すげえイライラする。なんか……こう、ドス黒い何かが芽生える感じだ。分かってくれるよな？画面の向こうの同士諸君。

彼女欲しいよ（つ、）

いやね？女の子の友達はいるんだよ？

例えば：蒼那とか？しかし、友達の域を出ない。

なんて思っている内に告白も終わり、イツセーが果てしなく気持ち悪い笑顔をしている。そんなイツセーにお祝いの意を込めて陸上で使われる砲丸を頭にプレゼント♪

偶然にもイツセーはかわし、アスファルトに大きなクレーターを作った。

イツセーがパニックになっているのは、きつと気のせい。……ツチ（。、）

まあともあれ、始まった訳だ。

「もはや後戻りは出来ない。今まで止まっていた運命の歯車は回り始めた。これから起こるのは嵐だ！赤龍帝を中心にして世界が加速的に動き始める！！

俺はこの瞬間を16億年間も待った。俺が矢面だつて行動できるこの時を！」

俺は両手を左右に広げ、言い放つ。

「さあ始めさせて貰おうか原作介入を！！

この俺の、赤龍帝をからかい！弄り！！おちよくり！！ふざけ倒す！！『赤龍帝観察日記』計画を！！」

画を！！」

「おかしさんあそこに変な人がいる」

「しっ！！見ちゃいけません！」

「……………グスン」(; D C)
死にたい。

8 ページ目

『イツセーが彼女の自慢してきやがった。

だけどお前の彼女ボンテージ痴女（笑）なんだぜ？』

イツセーが天野夕麻に告られた次の日、

俺と親友イツセーと同じく親友の元……？なんとかと、ま、松……？何故だか名前を覚えることを脳が拒絶しているみたいだ。……これでもちやんと親友なんだぜ？

まあ、メガネの河童とボウズとイツセーの彼女（笑）と登校していた訳だが……

うん。変態共（メガネとボウズ）が二天龍に匹敵する殺気を出しながら、血涙流して
るよ……ははは、お前からホントに人間？

それでイツセーは鬱陶しくまだピーキヤー自慢してやがるので、変態共と俺から一言
ずつ言っただけだ。

「イツセーの裏切り者お!!」

「お前だけは、お前だけは許さねえ!!」

「ははは、槍にぶっ刺されて死んじまえ」ドズウ

「ぐふう!!」

おっと！失敬。つい鳩尾にぶち込みましたぜ。ぶっちゃけトラックと正面衝突するのと同じぐらいの威力で殺つちまったが……まあ主人公だ。

ギャグパートじゃ死にやあしないのが定番……ありや？白目で泡吹いてるよ？……ハアしようがない大切な親友を学校まで運んでやるか。……ひきづって。

先程から空気だったイツセーの彼女（笑）である天野夕麻（ボンテージ痴女）に一言挨拶して別れた。

さて、時は過ぎ、現在放課後。

我がクラスの教室に学年問わずリア充以外の全ての男子が集まっている。

皆顔が割れないように白い仮面を被っている。……なんともシュールな光景だ。

おいおい、教師もいるよ……ああ、あの暑苦しい赤ジャージか。赤ジャージのせいで白い仮面の意味がない。

皆が集まった理由は一つ。そうイツセーのリア充化に対する対応だ。

人の噂が広まる速さとは、恐ろしいものだ。

どうやら、この噂を広めたのは、黒髪に灰色の瞳を持った男子生徒らしい。……まったく誰だか皆目見当つかないぜ。（・▽・）

しかも、お集まりの皆様からは、殺気、鬼気、邪気、覇気、闘気、狂気、仙気が感じらる。あくえくと、あれだ。朝も使った言葉だが敢えて言わせてくれ。

お前からホントに人間か？

こいつらだけで世界が取れる気がする。

天使、墮天使、悪魔でも泣いて逃げ出すだろう。

そんな空気を醸し出しす皆様の前、教壇に出て、言葉を発する。

「あー本日〃リア充抹殺特殊大隊〃の同士諸君に集まつて貰ったのは他でもない。我が校に巣くう性欲の権化兵藤一誠のリア充化だ。

現在、変態イツセーに彼女が出来たなどと言う噂が出回っているが、これは、事実だ！現に私や他数名の同士がこれを目撃している。

つまりは、だ。同士イツセーは我々リア充抹殺特殊大隊の鋼鉄より硬い血の掟を破った裏切り者である！！

その隊員A！我々リア充抹殺特殊大隊の血の掟第1条を言ってみろ！！」

「はっ！！我々は愛に生きるのではない！！哀に生きるもの！！愛に生きたければ、隊長や隊員達の了承を得ること！これを破りし者には血の粛清を！！」

「そうだ！！この掟は絶対である！例外はない。して、同士諸君、君達は何故変態イツセーなんかに彼女が出来たのかと怒りを感じているだろう。何故アイツが！何故自分には彼女が出来ないのかと！！何故自分を見てくれないのかと！！」

だが私は知っている。同士諸君の1人1人が影で自己を研鑽し、高めていることを

!!

「「そうだ！そうだ!!」」

「私はすでに学校生活を同士諸君の幸福とリア充共への哀に捧げた。だが同士諸君には、まだ愛に生きる資格がまだある。」

しかし、私が許せないのは同士達の了承を得ずにリア充化したこと!!故に我々は粛清しなければならぬ。さあ、武器を取れ!!」

「「うおおおおお!!」」

俺の指示通りに武器を取り出す同士達。

シャーペン、ボールペン、カッター、木刀、鉄パイプ、ハンマー、警棒、スタンガン、サバイバルナイフ、釘打ち機、改造エアガン、チェーンソー、神器つて……あれ?後半は洒落にならんよ?てか最後の奴!完全に殺る気だよ。何故所持してる?

「よろしい。諸君らの熱意は伝わった。そして忘れてはならないことがある!

隊員T!リア充抹殺特殊大隊の血の掟第57条を言ってみろ!!」

「はっ!!粛清とは、正義の戦いである。しかし、正義には、常に誇りと責任を伴うものである。故に自分の行いに誇りと責任を持つこと!!」

「ご苦労。そうだ!我々の戦いは正義である。哀を忘れ、愛に走ったイツセーに再び哀を取り戻させるのだ!!イツセーはすでに屋上に捕らえて置いてあり、救急車も手配済み

だー！」

「ここで俺は某悪逆皇帝の如く言う。

「今こそリア充抹殺特殊大隊隊長として、命じる!! その白き仮面を裏切り者の血で染め上げる!!! 全軍出撃!!!」

「「イエツサー!!!」」

俺の号令と共に教室から隊員達が飛び出していき、教室に1人残った俺はさつさと仮面を取る。

「いや〜馬鹿を使って遊ぶのは楽しいね。ついでに精神支配系神器の練習が出来て万々歳だ。」

教室の隅にいた女子が尋ねてきた。

「あの〜長門君? どうにかしないでいいの?」

「どうにかしないでいいし、どうにかするつもりもない。彼等は、自分の行いに対する誇りと責任を持つてるんだぜ? 仄めかしたのは俺でも、アイツらに強制はしてないし、そして最終的には自分で襲撃しに行った訳だ。つまり……………」

「つまり?」

『僕は悪くない。』

画面の向こうの皆様には殺される覚悟で裸エプロン先輩のセリフを言ってみた。反省

はするけど後悔はしないのだが……

一度言ってみたかったんだよ。そこを理解して頂けると嬉しい。

そして、目の前の女子も乾いた笑いをしている。

「あーそーだ。駅前に美味しいスイーツのお店を見つけたんだけど一緒に行く?」

ここでフツメンスマイル。木場君がやればイケメンスマイルなんだが……残念だが所謂はフツメンあまり効果はない。

……え? 学校生活を哀に捧げたんじゃないかって? ……なにそれ美味しいの?

……責任? そんなものに食わしてしまえ!!

「っ／／／うんっ!」 一緒に行こっ! (何時もは裏がある感じの笑い方だけど、普通笑っていたら可愛くて、保護欲が湧くんだよね。)

うん。きつとスイーツに釣られたんだ頬が赤く見えるのは気のせいに違いない。

その後、一緒にスイーツを食べにいったのだが、後日、蒼那にバレて何故か「私も連れて行ってください」と言われ、スイーツを食べに行つたのはまた別の話。

……イツセー? 半殺しならぬ九割九分九厘殺しされてたよ? ……お気の毒に (笑)

9 ページ目

『今日家に不法侵入者が二匹来た。

有り得ない、これは悪夢だ。(|| || ;)

……ついでにイツセーが死んだ(笑)』

さて、今日は原作通りイツセーが天野夕麻もとい墮天使とデートし、殺される日であるが……んなことあどーでもいい。さそれより目の前にいる無限ロリと猫耳の和服お嬢さんをどーするかだ。

「長門 久しい。」

「お邪魔してるにゃん。」

うん。お分かり頂けたかな？

久しぶりの登場オーフィスちゃん

今回初登場はぐれ悪魔の黒歌。

職業がテロリストのロリとシスコンだ。

「んで、何のよう？」

「長門 グレー」だが、断る!!」……」

「私はただ〝無限の龍神〟が一目置く睦月長門を見にきただけにやん♪」

「感想は？」

「ただの弱そうなフツメンにや。」

……この馬鹿猫はオブラートに包むことを知らないらしい。コイツの頭ん中はあれか？妹一色か？せめて常識を学んで欲しいところだ。言っておくがフツメンはステータスだ!!

「名前を知らない奴にボロクソ言われたのは、生まれて初めてだ。」

「そうだったにや、私の名前はk「ピー」……くr「ピー」黒「バキューン☆」……てか、名前に自主規制音は酷すぎよ!!……もう、嫌。」Orz

キャラ付けの〝にやん♪〟が消えてるぜ？

これくらいで落ち込むなよ！もつと熱くなれよ!!諦めたらそこで試合終了だろ!?!
……スマン、自重する。

「何で落ち込んでるか皆目見当つかないけど、元気だせよ。ゴンザレス黒沢さん。」

「あんたのせいにな！それとゴンザレス黒沢さんって誰にな!!」

「お前」

「違うにや!!」「じゃあ、ニヤンザレス猫島さん?」違うにや!!だから私は「知ってる黒歌だろ。」違うにや!……あつ!ち、違わないにや!!」

「さつきから一人でなに言ってるの？（頭）大丈夫？良い精神科医紹介してやろうか？」
「にやがあああああああ!!」

ヒステリック起こして頭を両手でかきむしり始めた。あらやだ！怖い。情緒不安定なのは、仙術の副作用みたいなものか？………どー考えても俺のせいだけどね。知ったこっちゃないし、むしろザアマミロだ。さて、幾らか気もはれたことだし、本題に入りたいのだが……

「なあ、オーフィスちゃんこの子なにやってんの？バカなの？アホなの？」

「ニヤンザレス猫島 アホ。」

「アホじゃないにやああああうええええええん!!」

泣き始めちゃったよ。どーすんだよこれ。泣いたお子様程困ったものはない。しかし、オーフィスちゃんもノリが良くなったね。……黒歌はまあ、しょうがないので神器で作った魔改造猫じやしをとります。

「ほくれほれ猫じやしだぞ?」

「うゝ、んにや?にやにや♪」

食いついた。どうやら猫の本能には逆らえないようである。しかし、目をキラキラさせながら猫じやしを追う姿は素直に可愛いと思った。……だがこの時俺は失敗した。俺が出したのは“魔改造”猫じやしだったんだ。ちなみにこいつの先端部分に触れ

ると……

「ぎにやにやにやにやにやあああああ☆☆◎@÷□◆!？」バチバチ

「おおよそ一億ボルトの電流が流れるのさあ☆☆忠告しようと思ったが、どうやら手遅れだったようだ(笑)」

ある意味黒(焦げ)猫である。

「おい死んだか？」

「……………」

「よし。オーフィスちゃん手伝ってくれ今からコイツをハーデスに売り飛ばしに「にやああああ!!起きてるにや!」…………ツチ」

「黒歌 うるさい。」

ホラ見ろ。黒歌がうるさいせいでオーフィスちゃんが不機嫌になっちゃったじゃないか!オーフィスちゃん怒らせたなら地球がアポーンってなるんだよ?

だからオーフィスちゃんを怒らせたならダメ!!これ絶対!わかった!?!…………え?俺?俺はほら、地球程度なら幾ら壊されても直せるからいいんだよ。

「長門 “禍の団”に入っつて。」

「またかよ。」

「グレートレッド 一緒に倒す。」

「嫌だよ。就職時の履歴書作成に“テロリストやってみました。”なんて書きたくねえよ。ついでに自らボッチになりたがる奴なんて誰が手伝うか。」

「バレなければ問題ない。皆もそうしてる。」

「皆ねえ。てか、グレートレッド倒したいのは分かるけど雑魚を幾ら集めても意味ないぜ? どうせ集めるなら二天龍クラスの奴にしたほうがいいじゃね?」

「二天龍クラスなんてホイホイいるわけないや!!」

「なら、神滅具保持者でいいんじゃない?」

「神滅具は13種類しか確認されていないのに保持者なんて簡単に集めらんないや!!」

「でも俺からしたら、神滅具ってそこまで珍しくもないけど? 現に 4925兆916

5億2611万0643個持ってるし。」

「……………あ?」

「だから 神滅具が4925兆9165億2611万0643個。」

「……………ふ、ふ」

「ふっ。」

「ふざけるなー!!!」

怒られた。(。—。)

どうして誰も信じてくれないんだ!!…………どうみても現実味がないからだね(笑)

兆回近く死んだから当然ちや当然だね。後処理、メンタルケアがめんどいので神器で適当に記憶をいじくってポイーと捨てる。

なんとも優しい心づかい。流石、巷で紳士として有名な俺。

きつと黒歌も感謝で涙を流すだろう。

まあ、気絶してんだけどね（笑）

ちなみにオーフィスちゃんは無表情ながらも喜んでいた。

そんなこんなで目を覚ました黒歌をおちよくって、おちよりまくって、おちよくり倒してたら、気が付いたらいつの間にか夕方！

ふむ……親友を助けに行くか否か、

答えは否！正直面倒。どっかの二次創作みたいに「僕が助けてみせる！」とか「俺T u e e e e e e e e !!」なんてやるつもりはない。俺はイツセーを弄りたいだけだ!!

だからさつさと大人しく原作通りに死にやがれだ。

この気持ち、きつとニート兼テロリストのシスコンな馬鹿猫（黒歌）もわかってくれるだろう。

「そうそう、俺の親友今日死ぬんだよね。腹ぶつ刺されて。」

「えっ!? 軽っ!! というか、親友なんですよ!! 助けなくていいにゃ!?!」

「いーのいーの、——（*）ok」

「長門 親友って誰？」

「赤龍帝（笑）」

「ドライグ？」

「そう。歴代最弱で規格外の変態の赤龍帝さ。」

「まあ、近くに黒龍帝（笑）の魔力を感じるから何とかなるんじゃないか？」

「なら、大丈夫にや？」

黒歌よ……アイツ自体そんなに強くないぞ。寧ろアイツの存在自体が死亡フラグだ。

「……………ゼイノス」

うわあ……オーフィスちゃんスゲエ嫌な顔してるよ……なんかこう、生理的に受け付けないって感じ。

黒龍帝は俺様ナルシだし、進んで介入するをじゃね？

お！介入し始めた………ん？あれ？

……………え？イツセー死んじやったよ？

確か俺様最強!!って奴だったよな？

介入したのに助けらぬのか………無いわあ。

まあ、原作通りイツセーも死んでリアス・グレモリーも来たし………問題ないな。

そうして長い1日が終わった。

……え？ オフィスちゃんと黒歌？ 北極海のド真ん中に転移してやったぜ。 極寒プ
レイ頑張って！

やれやれ、これでやつと静かになったぜ。

10 ページ目

『とある夕方、イツセーがまた墮天使に襲われていた。

……お前は墮天使ホイホイなのか？』

現在夕方。

イツセーがおっさん墮天使に襲われております（笑）

腹から血を流しているみたいだ。

てか、でしやばりの黒龍帝（笑）は……いないね。何やってんだろ？……神器で調

べた結果、迷☆子☆

……使えねえ（*、*、*）

しようがない。助けるか。

「イツセーくううううんあつそびましょおおおおお!!」

イツセーを襲おうとしている墮天使の後頭部にドロップキック!!

墮天使は前に倒れ、イツセーの顔面に墮天使の顔面が激突した。

「あー、イツセー大丈夫?! ……クツ、アハハハハハハハハ!!」

大爆笑 ☆

顔面同士がぶつかって、さ……唇が当たってる訳だよ唇に。

最初はぶつかった痛さで気づいていなかったイツセーだが、痛みが引いて今の状況を把握し始めて、次第に顔が青くなっていく。

「ぎいやああああ!!俺のファーストキスがこんなおっさんとおおお!!
うおえええええええ!!」

むせ始めた。

てか、ファーストキスだったんだ。哀れなり(笑)

……罪悪感?そんなものはないなあ、俺が楽しければ全てよしだ!!

ちなみに墮天使は……

「ぐうおおおお!!わ、私の初めてが!!」

お前もか(笑)

さつきまで命のやり取りをしていた2人が地面にOrzしながらむせていて、それを笑いながら写メ撮っている俺。

なにこのカオス。

「まあ、何はともあれイツセー、助けにきてやったぜ。」

「いや!助けてないだろ!寧ろ、お前は敵だ!!」

「あれは、事故だ。俺は悪くない。それとあまり騒ぐなよ、近所迷惑だろ?」
「お前のせいだろ!?!」

「ついでにこれ以上騒ぐと出血多量で死ぬんじゃない?」

「ついでってなんだよ!?!明らかにこっちが重要だろ!!というか、心配してるならこれ以上喋らせるなよ!?!」

おいおい刺された割には元気だな。

そのゴキブリ並の生命力に拍手!!

「あつーそうそう、イツセーこの写メ腐な女の子に売りつけていい? 題名は……」
「フツメンは見たー! 禁断の恋が成就した瞬間」とかどう?」

「いいわけねーだろ!?!……っ!?!ゴホッ!」

「本当に大丈夫か?」

「……覚えてろ。」

……ハン! ザマアミロ

「よくも、人間風情が!! 私の前初めてを!!」

なんかね、墮天使が光の槍を投げつけて来やがった。

モロ直撃コースなんだが、しかも避けるとイツセーに当たっちゃうんだよ。

此処での俺の選択肢

1・神器を使う

2・俺が食らう

3・避けてイツセー死亡のお知らせ

まず1は却下。正直面倒。次に2は食らっても傷一つつかないがナンセンスだ。最後に3、よし！これにしよう！

安心してイツセー！君の、たいして尊くもない犠牲を俺は忘れないよ！！

……だがしかし、残念だが、非常に残念だが！そうさせる訳にはいかない。

何故なら……イツセーが死んだらこの小説続かないじゃん（・ω・）

と言う訳で飛んできた光の槍をキャッチ！そしてリリースして、堕天使の腹にプレゼント。

「ぐああああああ「うるさい。」がああああああつ!？」

うるさいので、腹を貫かれて血が吹き出す傷口に更に蹴りをぶち込んでみる。

駄目だ。余計にうるさくなった。

まあ、靴の先端に神器「病毒創造」〈ポイズン・シック〉で創った毒が塗ってあるのでその内静かになるだろう。

因みに創った毒は「痛覚を通常の150倍にして徐々に死に至らせる」と言う生優しいやつだ。さらに解毒不可だぜ。

此処まで来てサービスピ精神を忘れない俺って素晴らしいね（笑）

さて、何故か死にかけ（笑）の墮天使を放置してとイツセーの治療をしなけr……………
「ちよつと、いいかしら？」

……………あん？ 一体誰だ…って、ああ。血のように紅く長い髪そして豊かな母性の象徴。

……………何だ野生のリアス・グレモリーか。

「何だ野生のリアス・グレモリーか。」

「あら？ 私の事を知っているのね。」

「そりゃあ、二大お姉様（笑）だからね。」

「何か引つかかるけど……………いいわ。単刀直入に聞くわ、あなた何者？」

「何者…か、そんな事よりイツセーが死にそうだぜ？」

「えっ!？」

なんかね、サスペンスみたいに血のダイニングメッセージで“パンツ”って書いて力尽きそうになつてんの（笑）

「だ、大丈夫っ!？」

「ううう……………」

「しょうがないな。神器「欲望地獄の歌」<ソング・デイズイアヘル>発動。

ほくらイツセー女の子のパンツですよ。」

イツセーに女性用下着（下）を投げつける。

因みに色は大人っぽい黒だ。

「ふおおおおおう!!」

やだ怖い! さつきまで死にかけてたのに今はパンツに飛びついていらつしやる。

そして発光しながら傷も治癒していく。

……うん。警察に電話しようかな。

「まずは私の下僕を助けてくれてありがとう。感謝するわ。

それにしても、あなた……神器複数所持者だったのね。

出来たら今発動している神器の能力を教えてくださいませんかしら?」

「欲望を代償に超回復とパワーアップ。欲望が強ければ強いほど効果に期待出来る。」

「そう。……でも、女の子の下着を持ち歩くなんて良い趣味とは言えないわね。」

「ハハハ、いつも持ち歩いているんじゃないぜ? コレはさつき剥ぎ取ったんだよ。」

「さつき剥ぎ取った?」

「どこぞの某裸蛇さんも言ってたじゃないか。任務に必要な物は現地調達だつて。」

「現地調達つて……?! ま、まさかとは思うけど、さつきからスカートの中がスースーするし、あ、あの下着にも見覚えが……も、もしかして?!」

もしかして？

「／／わ、わ、私の下着っ!？」

「イエア＼（＾o＾）／」

大☆正☆解☆

「イヤアアアアアアアアアアアアアアアッ!!？」

「アハハハハハハハハハハ、さーせん（笑）」

顔色がその紅色の髪の毛のようになってるぜ。……おいおい、落ち着け。謝つたら？
だから滅びの魔力弾の連射はやめろよ。

俺死んじやうよ？まあ、死んでも蘇るけど（笑）

魔力弾の雨を浴びること一時間、ようやく落ち着いたようだ。……やれやれだぜ。

因みに墮天使は天に召された（笑）

「くくっ!!なんで私の滅びの魔力を食らって無傷なのよ!？」

「それが俺クオリティーだ。」

流石にお前の兄貴の魔力弾を食らってたら肌荒れするけどね。」

「!!あなたお兄様を知っているの!？」

「知っているも何も、ほら。」

俺は携帯で、シスコン、ミートパイ、厨二、俺の4人で左手を腰に手を当て右手で横

ピースしている画像を見せる。

「確かにお兄様ね……それとこの2人は誰なのかしら？」

「墮天使の総督アザゼルと大天使の長ミカエル。」

「……ハア、もうあなたについて驚かないようにするわ。」

「あまり、溜め息つくと小皺増えるぜ？」

「あなたのせいよ！……取り敢えず明日の放課後に遣いを送るから話を詳しく聞かせて頂戴。」

「おkわかった。それじゃお休み。」

「……ええ、お休みなさい。」

リアス・グレモリー……長いな。以後グツちゃんと呼称しようか。

グツちゃんは転移魔法陣で帰っていったんだ。………ノーパンで

未だに二大お姉様（笑）のパンツに興奮している馬鹿（イツセー）の後頭部にコンクリブロック叩きつけて気絶させてから神器で家に強制転送。

何気にこの神器の名前はひどい。だって「神々の黒冥穴」〈ゴミバコ・ニ・ポイ〉だけ？

とまあ、俺は明日の誘いに備えて早めに帰宅するのだった。

………パンツ返し忘れた。

面倒臭いし明日学校サボろう。